

# 『経済の鼓動』にて、日本ウエストーンが掲載されました。

掲載日順（敬称略）

■信濃毎日新聞 夕刊（2016年02月02日）

## 経済の鼓動

### 汚れ拭く布を洗濯 リサイクルの企業

#### 障害者を積極的に雇用

障害者も入念的に活用する。日本ウエストーンは、工場内の機械の汚れなどを拭き取る布「ウエ」の製造やリサイクルが主力というユニークな企業だ。

「仕事が好き」

東海圏の岐阜県から車で約15分、日本ウエストーン工場では、同社の大型洗濯機が稼働していた。洗濯機の中で洗っていたのは、掃除機や古新聞などと一緒に仕事で出てくるとともに、同社の従業員30人、うち障害者は16人、雇用率は20%、法定雇用率（2・0%）の10倍だ。



大回洗濯機で洗浄する従業員

世界最大の生産高の「ウエ」は、日本では物理的やサイクリングを推進する環境が形成推進基本法が2009年に、企業の環境全盛期が高まった。日本ウエストーンへの注文は次第に増加、最近では1日10万枚の手袋をリサイクルしている。

「あんな黄色い布の山は見たことがない。それを磨き上げるウエ」と、

世帯のゴミ問題の高まりを受け、日本では物理的やサイクリングを推進する環境が形成推進基本法が2009年に、企業の環境全盛期が高まった。日本ウエストーンへの注文は次第に増加、最近では1日10万枚の手袋をリサイクルしている。



洗濯するための作業員の仕事をする入会者。数社内の障害者の作業員もいる。



#### 提言 精神障害者の支援が課題

厚生労働省によると、2014年の日本の障害者（身体、知的、精神）数は約688万人。この民間企業には約43万人が雇用された。内訳は身体障害者が74%、知的障害者が21%、精神障害者が5%と低く、雇用促進が課題になっている。

「麻紗社社長」として来た（日）麻紗社社長と

2019年4月からは精神障害者雇用の取り組みが強化されるが、受け入れる企業側には戸惑いもある。

こうした現状を受け、人材サービス会社「アール・エス・ピー」の子会社は、今年1月から精神障害者の就労支援サービスに乗り出した。

の麻紗社社長に聞いた。退職金で精神障害者の社会復帰を支援する社会福祉法人「清徳会」を設立した。麻紗社社長は「父は障害者の職業訓練の重要性を痛感して清徳会を設立した。清徳会は「3つの事業所を運営。現在約100人の精神障害者が就労訓練を受けている」と話す。

麻紗社社長は「清徳会は清徳会の理事長も兼任している。『清徳会ももちろん当分は、障害のある従業員をキャストと呼んでいる。デイズ・オンラインが従業員やスタッフを雇うための企業に」

日本ウエストーンは、同社が引き受けた仕事の一部を清徳会率の事業所に外注している。

具体的には、汚れ拭くウエや作業員の手袋の分、洗濯後の汚れや梱包作業を「3つの事業所」が受け持ち、営業や回収、洗拭くウエストーンが支援する協業関係を築いている。事業所で技術を身に付けたい障害者ウエストーンや他の会社に譲渡する。

#### 「社会的責任を」

ウエや手袋の回収や分、薄弱な人手が必要で単調な作業だ。「障害者は、労働的・単調な作業を続けることが得意な特性を持っている」と社長は話す。

障害者の雇用促進を促している。障害者が前向きに毎日地獄の一員として生活できる社会実現には就職して自らの生活が楽になる。厚生労働省の調査によると、13年4月には障害者の法定雇用率が1・8%から2・0%へ引き上げられた。18年4月からは法定雇用率の認定（身体、知的障害者対象）に新たに精神障害者も加わる。精神障害者の雇用促進を促すためだ。

精神障害者に対しては、病気の理解が進まず、就労してもすぐに退社してしまうケースもある。

麻紗社社長は「精神障害者は働き欲みながら就労する機会も多く、季節によって体調が悪くなることで休むこともあるが、無理をさせてはいけない。障害者を雇うことで社会企業の社会的責任を担って取り組んでほしい」とトクハス。

日本ウエストーンでは、国内外から年に約400人の障害者が訪れるという。

（随時掲載します）

(第3種郵便物認可)

# 経済の鼓動

## 企業の社会貢献

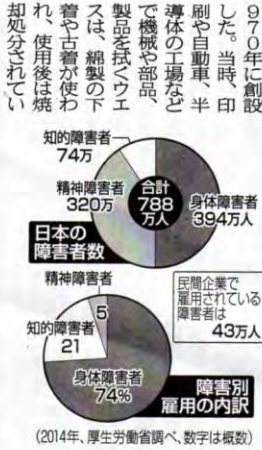
障害がある人を積極的に雇用了。日本ウェストン（岐阜市）は、工場の機械の油污れなどを拭き取る布（ウエス）の製造やクリーニング、リサイクルが本業というユニーク企業だ。

地球環境への問題意識の高まりを受け、日本では廃棄物処理やリサイクルを推進する循環型社会形成推進基本法が2000年にでき、企業は環境保全意識が高まった。日本ウェストンへの注文は次第に増加。最近では1日に100万枚の手袋をクリーニングするという。

### ■雇用率は20%■

東海道新幹線の岐阜羽島駅から車で約15分。日本ウェストンの工場では、何台もの大型洗濯機が稼働していた。洗濯機の横で作業していた知的障害者の古沢聡臣さん（34）は「皆と一緒に仕事ができると楽しい」と明るく笑った。

同社の従業員は30人。うち障害者は6人と雇用率は20%、法定雇用率（2.0%）の10倍だ。日本ウェストンは会長の白井清三氏（78）が1970年に創設した。当時印刷や自動車、半導体の工場などで機械や部品製品を拭くウエスは、綿製の下着や古着が使われ、使用後は焼却処分されていた。



# 障害者を積極的に雇用

## 日本ウェストン 社会福祉法人と協業し



洗濯するため作業用手袋の仕分けをする入所者＝岐阜市内の障害者の作業訓練事業所

日本ウェストンでは、洗濯用に1日に約200トの水を使用する。大量に出る排水は化学薬品を使わずに微生物で分解する。浄化した水は洗濯用に再利用している。

清三氏が会社に障害者を受け入れ始めたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけ。その後、障害者のいる家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を障害者が占めた時も

あるという。01年、清三氏は社長ポストを娘婿の麻紗社社長に譲った。退職金で精神障害者の社会復帰を支援する社会福祉法人「清穂会」を設立した。

麻紗社社長は「父は障害者のある患者を社会復帰させてほしい」と職を設立した。清穂会は二つの事業所を運営。現在92人の精神障害者が登録し訓練を受けている」と話す。

麻紗社社長は「今は清穂会の理事長も兼務している。『清穂会も含め当社グループでは、障害のある従業員をキャストと呼んでいる。キャストと呼ぶ必要がある』（厚生労働省）の考えからだ。」

### ■「キャスト」■

13年4月には障害者の法定雇用率が1.8%から2.0%へ引き上げられた。18年4月からは法定雇用率の算定（身体、知的障害者が対象）に新たに精神障害者も加わる。精神障害者の雇用を促進するため、病気の理解が進み、就労してもすぐに退職してしまつケースもある。

麻紗社社長は「精神障害者は薬を飲みながら就業する場合も多く、季節によって体調が悪くなつて急に休むこともあるが無理をさせてはいけない。障害者を雇用することが企業の社会的責任だと思つて取り組んでほしい」とアドバイスする。

日本ウェストングループには、国内外から年に約400人の見学者が訪れるという。（共に同通信編集委員 渡部道雄）

「障害者は労働集約的で単純な作業を続けることができる特性を持っている」と社長は話す。国は障害者の雇用促進を図っている。「障害者が普通に暮らすために」

「特性が生きる」

ウエスや手袋の回収や分類選別などは人手が要る労働集約的な作業。

「障害者は労働集約的で単純な作業を続けることができる特性を持っている」と社長は話す。国は障害者の雇用促進を図っている。「障害者が普通に暮らすために」

### 視点

厚生労働省によると、2014年の日本の障害者（身体、知的、精神）数は約788万人。うち民間企業には約43万人が雇用された。内訳は身体障害者が74%、知的障害者が21%、精神障害者は5%と低く、雇用促進が課題になっている。

身体障害者の場合、作業用機の高さ調整など職場のバリアフリー化で対応できるが、精神障害者は対応が難しいためだ。

### 精神障害者への対応が課題

日本ウェストングループは、医師や家族と密に連絡を取ってサポート。「長年、精神障害者への接し方はノウハウを蓄積してきた」（白井麻紗社社長）という。

2018年4月からは精神障害者雇用の取り組みが強化されるが、受け入れる企業側には戸惑いもある。こうした現状を受け、人材サービス「テンプホールディングス」の子会社は、今年1月から精神障害者の就労支援サービスに乗り出した。



# 経済の鼓動

=23=

障害がある人を積極的に雇用する日本ウエスタン(岐阜市)は、工場の機械の油污などを拭き取る布(ウエス)の製造やクリーニング、リサイクルが本業というユニーク企業だ。

## 障害者の積極雇用

### ▼仕事が楽しい

東海通幹線の岐阜羽島駅から車で約15分。日本ウエス東の工場では、何台もの大型洗濯機が稼働していた。洗濯機の横で作業していた知的障害者の古沢聡田さん(34)は「皆さん一緒に仕事ができると楽しい」と明るく笑った。

同社の従業員は30人。うち障害者は6人と雇用率は20%、法定雇用率(2.0%)の10倍だ。日本ウエス東は会長の日井清三氏(79)が1970年に創設した。当時、印刷や自動車、半導体の工場などで機械や部品、製品を拭くウエスは、綿製の下着や古着が使われ、使用後は焼却処分されていた。同社は、ウエスや作業用の手袋を洗濯して再利用する事業を始めた。

# 傘下法人で職業訓練



洗濯するための作業用手袋の仕上げをする人。所者：岐阜市内の障害者の職業訓練事業所

## 受け入れ従業員2割に

識の高まりを受け、日本では廃棄物処理やリサイクルを推進する循環型社会形成推進基本法が2000年にできた。H20ロケットでも、企業の環境保全意識が高まった。日本ウエス東への注目は、約2千社に上る。最近では、日本ウエス東で



頼まれたのがきっかけ。その後、障害者のいる家族から依頼が相次ぎ、身体知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を障害者が占めた時もあるという。

### ▼「キャスト」

01年、清三氏は社長ポストを娘婿の麻紗杜氏に譲った。退職金で精神障害者の社会復帰を支援する社会福祉法人「清徳会」を設立した。麻紗杜社長は「父は障害者の職業訓練の重要性を痛感して清徳会

### ▼人手要る作業

「障害者は、労働集約的で単調な作業を続けることができる特性を持っている」と社長は話す。国は障害者の雇用促進を図っている。「障害者を雇用することが企業の社会的責任と思つて取り組んでほしい」とアドバイスする。日本ウエス東グループには、国内外から13年4月には障害者1・8%から2・0%へ引き上げられた。18年4月

厚生労働省によると、2014年の日本の障害者(身体、知的、精神)数は約788万人。うち民間企業には約43万人が雇用された。内訳は身体障害者が74%、知的障害者は21%、精神障害者は5%と低く、雇用促進が課題になっている。

## 民間企業43万人雇用

日本ウエスタングループは、医師や家族とくみ細かく連絡を取ってサポート。「長年、精神障害者への接し方などノウハウを蓄積してきた」と、日井麻紗杜社長(51)は話す。2018年4月からは精神障害者雇用の取り組みが強化されるが、受け入れる企業側には戸惑いもある。こうした現状を受け、人材サービス大手のフューチャーワークの子会社は、今年1月から精神障害者の就労支援サービスに乗り出した。

麻紗杜社長は「精神障害者は薬を飲みながら就業する場合も多く、季節によって体調が悪くなつて急に休むこともあるが、無理をさせない。障害者を雇用することが企業の社会的責任と思つて取り組んでほしい」とアドバイスする。日本ウエス東グループには、国内外から13年4月には障害者1・8%から2・0%へ引き上げられた。18年4月

(第3水曜日掲載)

# 経済の鼓動

障害がある人を積極的に雇用する日本ウエストン(岐阜市)は、工場の機械の油污れなどを拭き取る布(ウエス)の製造

東海道新幹線の岐阜羽島駅から車で約15分。日本ウエストンの工場では、何台もの大型洗濯機が稼働していた。洗濯機の横で作業していた知的障害者の古沢聡(とみ)さん(34)は「皆と一緒に仕事ができとても楽しい」と明るく笑った。

同社の従業員は30人。うち障害者は6人と雇用率は20%。法定雇用率(2・0%)の10倍だ。

日本ウエストンは会長の白井清三(しみず)氏(78)が1970年に創設した。当時、印刷や自動車、半導体の工場などで機械や部品、製品を拭くウエスは、綿製の下着や古着が使われ、使用後は焼却処分されていた。

同社は、ウエスや作業用の手袋を洗濯して再利用する事業を始めた。

地球環境への問題意識の高まりを受け、日本では廃棄物処理やリサイクル

## 企業の社会貢献

を推進する循環型社会形成推進基本法が2000年にでき、企業の環境保全意識が高まった。日本ウエストンへの注文は次第に増加。最近では1日に100万枚の手袋をクリーニングするという。

「あの黄色い布の山は三菱航空機の機体を磨き上げるウエスだ」と説明



洗濯するため作業用手袋の仕分けをする入所者＝岐阜市内の障害者の作業訓練事業所

# 障害者を積極雇用 社会福祉法人と協業

してくれたのは白井麻紗(ま紗)社長(51)だ。H2ロケットでも同社のウエスが使われるなど納入先は今では約2千社に上る。

日本ウエストンでは、洗濯用に1日に約2000リットルの水を使用する。大量の水を排水は化学薬品を

浄化した水は洗濯用に再利用している。

清三氏が会社に障害者を受け入れ始めたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のいる家族から依頼

が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を障害者が占めた時もあるという。

01年、清三氏は社長ポ

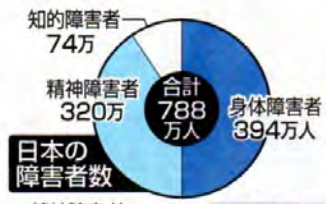
社を娘婿の麻紗社長に譲った。退職金で精神障害者の社会復帰を支援す

る。現在92人の障害者を運営。現在92人の精神障害者が登録し訓練を受けている」と話す。

麻紗社長は「父は清穂会の理事長も兼務している。清穂会も含め当社はグループでは、障害のある従業員をキャストと呼んでいる。ディスプレイが従業員やスタッフ

が、無理をさせてはいけない。障害者を雇用することが企業の社会的責任」と思っており、人手が足りないとアドバイスする。

日本ウエストングループには、国内外から年に約400人の見学者が訪



(2014年、厚生労働省調べ、数字は概数)

る社会福祉法人「清穂会」を設立した。

麻紗社長は「父は障害者の職業訓練の重要性を痛感して清穂会を設立した。清穂会は二つの事業所を運営。現在92人の精神障害者が登録し訓練を受けている」と話す。

麻紗社長は「父は清穂会の理事長も兼務している。清穂会も含め当社はグループでは、障害のある従業員をキャストと呼んでいる。ディスプレイが従業員やスタッフ

には、汚れたウエスや作業用手袋の分類、洗濯後の選別や梱包作業を二つの事業所が受け持ち、営業や回収、洗浄はウエストンが実施する協業関係を築いている。事業所で技術を身に付けた障害者はウエストンや他の会社

には、汚れたウエスや作業用手袋の分類、洗濯後の選別や梱包作業を二つの事業所が受け持ち、営業や回収、洗浄はウエストンが実施する協業関係を築いている。事業所で技術を身に付けた障害者はウエストンや他の会社

には、汚れたウエスや作業用手袋の分類、洗濯後の選別や梱包作業を二つの事業所が受け持ち、営業や回収、洗浄はウエストンが実施する協業関係を築いている。事業所で技術を身に付けた障害者はウエストンや他の会社

ている」と社長は話す。国は障害者の雇用促進を図っている。「障害者が普通に暮らし地域の一人として生活できる社会実現には就職して自立する必要がある」(厚生労働省)との考えからだ。

13年4月には障害者の法定雇用率が1・8%から2・0%へ引き上げられた。18年4月からは法定雇用率の算定(身体、知的障害者が対象)に新たに精神障害者が加わる。精神障害者の雇用を促進するための。

# 経済の鼓動

年間連載企画

障害がある人積極的に雇用する日本ウエストン。岐阜市は、工場の機械の油污れを拭き取る「ウエス」の製造元。リニア、リサイクルが本業という「U」企業だ。

## 岐阜の「日本ウエス」

注目が次第に増加  
東海道新幹線の岐阜羽島駅から車で約15分、日本ウエス・トンの工場では、何台もの大型洗濯機が稼働している。洗濯機の横で作業している知的障害者の古見聡起さん34は、「一緒に仕事ができるとも楽しい」と笑顔で話した。

## 職業訓練と労働が共に

障害者の古見聡起さん34は、「一緒に仕事ができるとも楽しい」と笑顔で話した。同社の従業員30人、うち障害者は6人。雇用率は20%、法定雇用率(2.0%)の10倍だ。

# 積極的に障害者雇用

日本ウエス・トンは、同社の古見聡起さん34は、「一緒に仕事ができるとも楽しい」と笑顔で話した。同社の従業員30人、うち障害者は6人。雇用率は20%、法定雇用率(2.0%)の10倍だ。



洗濯するために作業用手袋の仕分けをする入所者一総和市内の障害者の職業訓練事業所



「U」企業を創る日本ウエス・トンの古見聡起社長

分ける。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

## 医師や家族とサポート

厚生労働省によると、2014年の日本の障害者数は788万人。うち、知的障害者は約74万人、精神障害者は約320万人、身体障害者は約394万人。このうち、雇用されている障害者は43,300人。そのうち、正社員は74%、パートタイムやアルバイトは26%だ。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。

古見社長は「障害者を受け入れたのは80年代前半のこと。近所の病院から「精神障害のある患者を社会復帰させてほしい」と頼まれたのがきっかけだ。その後、障害者のある家族から依頼が相次ぎ、身体、知的障害者も含めて、従業員50人のうち30人を雇用する。浄化した水は洗濯機に再利用している。